



Title	多文化共生社会を目指して、日本に暮らすベトナム人を支える活動：和楽寺
Author(s)	チー, ティック ドウック
Citation	目で見えるWHO. 2026, 96, p. 16-17
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/105787
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

多文化共生社会を目指して、 日本に暮らすベトナム人を支える活動 —和楽寺—



在神戸ベトナム寺院和楽寺(チー住職)

ティック・ドゥック・チー (THICH DUC TRI)

ベトナム中部出身。

2015年に留学生として来日後、2016年に出家し、仏教僧となる。

2020年から和楽寺の住職を務めると同時に、日越支援会NPO法人の理事長も務めている。

和楽寺とは

和楽寺は、兵庫県神戸市長田区にある在日ベトナム人のための小さな寺院です。2012年に建立され、現在まで活動を続けております。この寺院を建立したのはティック・ニュアン・フォー師です。私は2020年より、この寺院の第二代住職として務めております。

日本 — 夢の国

第二次世界大戦後、日本は多くの世代と人々のたゆまぬ努力により、経済大国となりました。しかし1990年代初頭から、少子高齢化による労働力不足が深刻化し、外国人労働者の受け入れや移民政策に変化が生じました。外国人はそれぞれの夢を胸に、日本へ渡るようになりました。2010年以降、ベトナム人の来日者数は急増し、2025年

には70万人を超えるまでになっています。

この時期に来日したベトナム人の共通点として、多くが20～30代の若者であり、働き盛りの年齢層で、夢や希望を抱き、故郷を離れて未知の地で新たな生活を始めています。しかし、文化の違い、言語の壁、法律や労働文化に関する知識不足が、若者たちの夢を取り囲む壁となっています。

2015年、大学を卒業した後、私は自分の夢を追いつけるために来日しました。留学生としての生活は、外国人が日本社会に適應することの難しさを深く理解する機会となりました。人生の意味を探す旅の中で、私は自分に合った道を見つけました。それが仏教僧になるという道でした。観音菩薩の「世の苦しみの声に耳を傾ける」という精神は、私の人生の理想となりました。2016年10月、私は

和楽寺にて出家しました。その後、仏教の教えを学び修行を重ね、世界が未曾有の感染症に直面する直前の2020年に、この寺院の運営を担うこととなりました。

私たちの使命と活動

仏弟子としての慈悲の心、そして尊敬する師の教えを継承し、私は世の苦しみに耳を傾ける歩みを始めました。来日したばかりの外国人の夢や物語、苦しみに耳を傾けてきました。その中で、寺院運営者として、私たちの使命を次の三つにまとめました。

第一に、日本に住むベトナム人仏教徒への仏教的生活指導です。第二に、日本で暮らすベトナム人、特に日本で生まれ育つ子どもたちのための、ベトナム伝統文化の交流空間をつくることです。第三に、来日間もない外国人への支援と伴走です。



写真1 毎月の活動：心の相談・心理カウンセリング



写真2 2022年に大阪で日本・ベトナム伝統的な音楽交流会



- ① 写真3 SUMMER SCHOOL
日本子供とベトナム子供の交流
- ② 写真4 2023年に若者向けの夏勉強会
- ③ 写真5 2021年にコロナの影響で生活
困難者にお米・食材物を支援
- ④ 写真6 2021年に帰国出来ないベトナム
人にお住まい所と食事を支援
- ⑤ 写真7 2023年、和歌山県で溺死した
ベトナム実習生のサポート

私たちの活動は、これら三つの使命に基づいて行われています。

第一は宗教活動です。仏教は平和と非暴力の宗教です。私にとって仏教は単なる宗教ではなく、人生の道そのものです。身近にある素朴な幸せを大切に、幸福な人生を築くことを最終的な目的としています。現代社会の忙しさや誘惑の中で、金銭や名誉に流されず、目覚めた心を持つ者だけが真の幸福に出会えると考えています。若者の夢は美しいものですが、それが本当に自分に合っているのか、実現可能なのか、そして人生の最終目標なのかを見つめ直す必要があります(写真1)。

私はこれまで、多くの外国人の人生の物語、喜びや悲しみに耳を傾けてきました。その中で、人の心は人生の嵐の前でいかに脆いかを痛感しました。慈悲と智慧の道こそが、人生を正しく見つめ、長く続く価値を見出し、自身と周囲に幸福と安らぎをもたらすと信じています。坐禅会、仏教交流会、懺悔会、勉強会などを通じて、若者たちが自らの夢を形づくる手助けを行っています。また、外国人の生活や仕事上の悩みに寄り添い、仏教の精神に基づいて共に解決策を探すことを大切にしています。

第二は、伝統文化の継承と地域文化の尊重です。文化は国と民族をつなぐ架け

橋です。DNA が家族の血脈を継承するものであるならば、文化は民族の継承です。私たちはベトナム語教室、民俗活動、文化祭、伝統料理の調理会、文化交流会などを開催し、日本で生まれ育つ子どもたちが自国の文化に触れ、誇りを持てるよう努めています。また、ベトナム文化に関心を持つ日本人にも理解を深めていただく機会を提供しています。同時に、市役所や自治会、地域団体と連携し、防災活動や地域行事にも外国人が参加できるよう支援しています。これにより、外国人が日本の生活文化や基礎知識を学び、地域住民との良好な関係を築くことができます。相互理解こそが、多文化共生社会への第一歩だと考えています(写真2、写真3)。

第三は、日本における外国人支援活動です。現在の日本社会では、労働力不足を背景に外国人の受け入れが進んでいます。外国人はもはや日本社会に欠かせない存在です。国際化が進む中で、外国人と日本人がどのように共生し、共に日本社会に貢献できるかが問われています。

一方で、外国人は言語の壁や制度理解の不足から、問題に直面しやすい立場にあります。政府や支援団体の努力は続いています。外国人と行政・支援機関の間には依然として距離があります。私たちはその架け橋となり、生活や労働上の

問題を受け止め、必要に応じて同行支援や関係機関との連携を行っています。また、SNS を通じて法律、医療、生活に関する情報発信を行い、問題を未然に防ぐための基礎知識を提供しています。

これまでの具体的な活動

毎月開催している仏教勉強会では、生活に即したテーマを扱っています(写真4)。法律や医療に関する相談活動、オンラインセミナーも実施しています。解雇や精神的困難に直面した方への住居・食事支援を行い、特にコロナ禍では約100名を寺院で受け入れました(写真5、写真6)。医療や生活に関する通訳支援も行っています。さらに、在日ベトナム人労働者の逝去時には、葬儀支援やご遺体・ご遺骨の母国送還手続きの支援を行っており、年間20～25件対応しています(写真7)。

私たちの活動はすべて非営利です。これらの取り組みが、外国人労働者の生活と就労環境の改善に少しでも寄与し、日本社会に安定して溶け込み、第二の故郷として貢献できることを願っています。

今後とも、皆様のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。誠にありがとうございます。